

CA Business Intelligence

インストール ガイド
r2.1



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、複製、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報であり、かつ財産的価値のある情報です。ユーザは本書を開示したり、CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に使用することはできません。

上記にかかわらず、本書に記載されているソフトウェア製品に関連して社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、該当するソフトウェアのライセンスを受けたユーザは、合理的な範囲内の部数の本書の複製を作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各複製に添付することを条件とします。

本書のコピーを作成する上記の権利は、ソフトウェアの該当するライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーをすべて CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用に起因し、逸失利益、投資の喪失、業務の中断、営業権の損失、データの損失を含むがそれに限らない、直接または間接のいかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、該当するライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2009 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれ各社に帰属します。

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: インストールの概要	7
CA Business Intelligence について.....	7
Central Management Server	8
アプリケーション サーバ.....	8
対象読者.....	9
インストール情報の参照先	9
インストール前チェックリスト.....	10
インストール機能.....	11
インストールの種類.....	11
インストール オプション.....	12
CA Business Intelligence の現在インストールされているバージョンを判断する.....	14
インストールする CA Business Intelligence のバージョンを判断する.....	14
インストーラのための情報の収集.....	15
BusinessObjects 管理者の認証情報.....	15
Microsoft Windows インストール パス.....	15
BEA WebLogic 管理者の認証情報.....	16
CA 共有コンポーネント.....	16
レスポンス ファイル.....	16
アプリケーション サーバのワークシート.....	16
データベース要件.....	22
メディアの内容.....	30
ドキュメント ロードマップまたは別のドキュメントのダウンロード.....	30
第 2 章: CA Business Intelligence インストール要件	33
プラットフォーム固有の要件.....	33
サーバ プラットフォーム サポート.....	34
CA Business Intelligence システム要件.....	34
オペレーティング システム.....	35
サポート対象データベース.....	37
サポートされるアプリケーション サーバ.....	37
第 3 章: Microsoft Windows でのインストール	39
Microsoft Windows の権限.....	39
Microsoft Windows へのインストール方法.....	39

CA Business Intelligence のインストール ウィザードの実行.....	40
コンソール インストールの実行.....	40
サイレント インストールの実行.....	41
Microsoft Windows でのアンインストール.....	46
アンインストールの種類.....	47
GUI によるアンインストール.....	47
コンソールによるアンインストール.....	48
サイレント アンインストールの実行.....	48
手動アンインストール.....	49
第 4 章: UNIX および Linux でのインストール	51
ルート/ルート以外の認証情報.....	51
UNIX および Linux でのインストール方法.....	51
CA Business Intelligence のインストール ウィザードの実行.....	52
コンソール インストールの実行.....	52
サイレント インストールの実行.....	53
UNIX および Linux でのアンインストール.....	58
アンインストールの種類.....	59
GUI によるアンインストール.....	59
コンソールによるアンインストール.....	59
サイレント アンインストールの実行.....	60
第 5 章: インストール後の考慮事項	61
サンプル データベースおよびテンプレート.....	61
ファイアウォールの設定.....	61
付録 A: カスタム インストールの詳細	63
カスタム インストールの実行.....	63
付録 B: トラブルシューティング	67
Microsoft Windows 固有のエラー コード.....	67
UNIX/Linux 固有のエラー コード.....	69
CA Business Intelligence 固有のエラー コード.....	74
索引	79

第 1 章: インストールの概要

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Business Intelligence について](#) (7 ページ)

[対象読者](#) (9 ページ)

[インストール情報の参照先](#) (9 ページ)

[インストール前チェックリスト](#) (10 ページ)

[インストール機能](#) (11 ページ)

[CA Business Intelligence の現在インストールされているバージョンを判断する](#) (14 ページ)

[インストールする CA Business Intelligence のバージョンを判断する](#) (14 ページ)

[インストーラのための情報の収集](#) (15 ページ)

[メディアの内容](#) (30 ページ)

[ドキュメント ロードマップまたは別のドキュメントのダウンロード](#) (30 ページ)

CA Business Intelligence について

CA Business Intelligence は、レポートिंगおよび分析ソフトウェアのセットで、情報の提示およびビジネス意思決定のサポートを目的とし、さまざまな CA 製品により使用されます。CA 製品では CA Business Intelligence を使用し、さまざまなレポートिंगオプションにより、効率的なエンタープライズ IT 管理に必要な情報の統合、分析、および提示を行います。

CA Business Intelligence には、パフォーマンス管理、情報管理、レポートिंग、およびクエリ/分析ツールの完全なスイートである BusinessObjects Enterprise XI が含まれています。

CA Business Intelligence では、BusinessObjects Enterprise XI がスタンドアロン コンポーネントとしてインストールされます。他の CA 製品とは独立して動作するため、さまざまな CA 製品が同じ Business Intelligence サービスを共有することができます。CA Business Intelligence のインストールは、CA 製品インストール プロセス内で、完全に独立したアクティビティとして実行されます。

Central Management Server

BusinessObjects Enterprise XI では、ユーザおよびグループ、セキュリティ レベル、BusinessObjects Enterprise XI コンテンツ、およびサーバについての情報を保管するためのデータベースが必要です。プライマリ データベースは、CMS (Central Management Server) により管理され、CMS データベースと呼ばれます。

CA Business Intelligence のインストール時、使用する CMS を指定し、認証に必要なパラメータを入力します。CA Business Intelligence では、CMS データベースとして、製品側で用意したバージョンの MySQL をインストールするか、既存のデータベースを使用するかのオプションが提供されています。各オプションに必要な情報を特定するには、[「データベース要件」](#) (22 ページ) のデータベースのためのワークシートを参照してください。

監査機能を使用する予定がある場合、2 つ目のデータベースが必要です。

監査

CA Business Intelligence では、CMS の監査を有効にするためのオプションが提供されています。管理者は、監査を使用し、ユーザによるシステムへのアクセス、およびよく使用されるドキュメントをより詳細に把握することができます。CMS は、システム間のやりとりから監査データの収集および照合を行い、監査データベースに情報を書き込みます。管理者はこの監査データに基づいてレポートを生成することができます。

監査の詳細については、「BusinessObjects Enterprise 管理者ガイド」 (<http://www.businessobjects.com/>) の監査についての章を参照してください。

アプリケーション サーバ

BusinessObjects Enterprise XI では、Web アプリケーションの構成要素であるサーバサイド スクリプトを処理するために、アプリケーション サーバが必要になります。

CA Business Intelligence のインストール時、使用するアプリケーション サーバを指定し、必要な構成パラメータを入力します。CA Business Intelligence では、製品側で用意したバージョンの Apache Tomcat をインストールするか、既存のアプリケーション サーバを使用するかのオプションが提供されています。各オプションに必要な情報を特定するには、[「アプリケーション サーバ」](#) (16 ページ) のワークシートを参照してください。

対象読者

本書は、CA Business Intelligence および BusinessObjects 環境のスタンドアロン インストールを必要とするユーザを対象としています。ユーザは以下に関する運用知識が必要です。

- リレーショナル データベース
- Web サーバ
- CA Business Intelligence をインストールまたはアンインストールするプラットフォーム
- アプリケーション サーバの管理経験

インストール情報の参照先

以下の表は、本書での情報の参照先を示しています。

情報の種類	セクション
Business Intelligence の説明	CA Business Intelligence について (7 ページ)
システム要件	CA Business Intelligence インストール要件 (33 ページ)
インストール前チェックリスト	インストール前チェックリスト (10 ページ)
インストール ウィザードに必要な情報	インストーラのための情報の収集 (15 ページ)
CA Business Intelligence のインストール	Microsoft Windows: Microsoft Windows でのインストール (39 ページ) UNIX/Linux: UNIX および Linux でのインストール (51 ページ)
新規バージョンのインストール	新規インストール (13 ページ)
既存インストールの更新	更新 (13 ページ)
既存インストールの修正	修正 (13 ページ)
既存バージョンの修復	修復 (14 ページ)
CA Business Intelligence のアンインストール	Microsoft Windows: Microsoft Windows からの CA Business Intelligence のアンインストール (46 ページ) UNIX/Linux: UNIX および Linux からの CA

情報の種類	セクション
	Business Intelligence のアンインストール (58 ページ)
サイレント インストールの実行	Microsoft Windows: サイレント インストールの実行 (41 ページ) UNIX/Linux: サイレント インストールの実行 (53 ページ)
サイレント アンインストールの実行	Microsoft Windows: サイレント アンインストールの実行 (48 ページ) UNIX/Linux: サイレント アンインストールの実行 (60 ページ)
レスポンス ファイルの修正	Microsoft Windows: レスポンス ファイルの修正 (41 ページ) UNIX/Linux: レスポンス ファイルの修正 (53 ページ)
コンソール インストールの実行	Microsoft Windows: コンソール インストールの実行 (40 ページ) UNIX/Linux: コンソール インストールの実行 (52 ページ)
コンソールによるアンインストール	Microsoft Windows: コンソールによるアンインストール (48 ページ) UNIX/Linux: コンソールによるアンインストール (59 ページ)
手動アンインストール	手動アンインストール (49 ページ)

インストール前チェックリスト

インストールの準備をする際、CA Business Intelligence のインストール前に、以下のチェックリストを印刷して、システム要件およびソフトウェア要件がすべて満たされていることを確認することをお勧めします。

- **システム要件。** CA Business Intelligence のインストール先である Microsoft Windows または Unix/Linux オペレーティング システムが、最小システム要件を満たし、対象のインストールについて十分なディスク容量を使用できることを確認します。[「CA Business Intelligence のシステム要件」](#) (33 ページ) を参照してください。
- **インストールの種類。** ニーズに合うインストールの種類を特定します。[「インストールの種類」](#) (11 ページ) を参照してください。

- **インストール オプション。** 以前のバージョンの **CA Business Intelligence** がすでにマシンにインストールされている場合、既存バージョンについてアップグレード、修正、修復のいずれを実行するかを指定します。 [「インストール オプション」](#) (12 ページ) を参照してください。
- **アプリケーション サーバの選択。** **CA Business Intelligence** で、製品付属のバージョンの **Apache Tomcat** をインストールするか、既存アプリケーション サーバを使用するかを指定します。

各オプションに必要な情報を特定するには、[アプリケーション サーバ](#)(16 ページ)のワークシートを参照してください。
- **データベース要件。** **CA Business Intelligence** と統合するデータベースを作成する前に、必要な設定を確認します。
- **データベースの選択。** **CA Business Intelligence** で、製品付属のバージョンの **MySQL** をインストールするか、既存データベースを使用するかを指定します。

各オプションに必要な情報を特定するには、[データベース要件](#)(22 ページ)の各データベースのためのワークシートを参照してください。
- **監査。** データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。 [「監査」](#) (8 ページ) を参照してください。
- **インストール情報。** インストーラを開始する前に、他のすべての必要情報を特定するには、[「インストーラのための情報の収集」](#) (15 ページ) を参照してください。
- **インストールの方法。** インストール ウィザードを使用、コンソール インストールを起動、またはサイレントインストールの実行の中からインストールの方法を選択します。 [「Microsoft Windows でのインストール方法」](#) (39 ページ) または [「Unix および Linux でのインストール方法」](#) (51 ページ) を参照してください。
- **レスポンス ファイル。** コンソールまたはインストール ウィザードによりレスポンス ファイルを生成することができます。 今後、**CA Business Intelligence** のサイレント インストールを別のマシンで実行する予定がある場合は、初期のコンソールまたはインストール ウィザードのサマリによりレスポンス ファイルを必ず作成します。 [「レスポンス ファイル」](#) (16 ページ) を参照してください。

インストール機能

以下のセクションでは、**CA Business Intelligence** のインストールで使用可能なインストールの種類およびオプションについて説明します。

インストールの種類

標準インストールとカスタム インストールにはいくつかの相違点があります。 選択するインストールの方法により、インストールの手順は異なります。

標準

ほとんどのユーザに推奨します。最も標準的なアプリケーション機能が提供され、以下が含まれます。

- CMS として MySQL
- アプリケーション サーバとして Apache Tomcat

カスタム

上級ユーザに推奨します。カスタム インストールでは、インストールするアプリケーション機能を選択および設定することができます。カスタム インストールでは、以下を実行するためのオプションが提供されています。

- MySQL をインストール、または以下を含む既存の CMS を使用
 - Oracle
 - Microsoft SQL
 - IBM DB2
 - Sybase
 - MySQL
- Apache Tomcat をインストール、または以下を含む既存のアプリケーション サーバを使用
 - BEA WebLogic
 - IBM WebSphere
 - Microsoft IIS
 - Apache Tomcat

完全なカスタム インストールの実行の詳細な手順については、[「カスタム インストールの詳細」](#)(63 ページ)を参照してください。

インストール オプション

CA Business Intelligence では、次のインストール オプションを使用できます。

注: インストーラを実行する前に、インストールの各方法に必要な情報を確認してください。[「インストーラのための情報の収集」](#)(15 ページ)を参照してください。

新規インストール

新規インストールの オプションでは、まだインストールされていない(サポート対象のオペレーティング システムの)マシンに CA Business Intelligence をインストールすることができます。新規バージョンの CA Business Intelligence のインストール時、標準インストールまたはカスタム インストールのどちらかを選択することができます。

注: CA バージョンでない BusinessObjects がすでにインストールされているオペレーティング システムには、CA Business Intelligence をインストールできません。

新規インストールでは次のオプションが提供されています。

- MySQL をインストール、または以下のような既存のデータベース管理システム (DBMS)を使用
 - MySQL
 - Oracle
 - Microsoft SQL
 - IBM DB2
 - Sybase
- Apache Tomcat をインストール、または以下のような既存のアプリケーション サーバを使用
 - Apache Tomcat
 - BEA WebLogic
 - IBM WebSphere
 - Microsoft IIS

更新

このオプションでは、BusinessObjects パッチを既存のインストールに適用します。

修正

修正オプションでは、CA Business Intelligence の既存インストールを変更します。

- CMS の [監査](#) (8 ページ)を有効にする (Microsoft Windows のみ)
- 新規バージョンの Apache Tomcat をインストール (Microsoft Windows のみ)、または既存のアプリケーション サーバを使用
 - Apache Tomcat
 - BEA WebLogic
 - IBM WebSphere
 - Microsoft IIS

修復

修復オプションでは、以前のインストールから保存されたプロパティを使用して再インストールすることにより、CA Business Intelligence の既存インストールを修復します。

CA Business Intelligence の新規インストールの状態と整合性のある状態に関連機能が戻るように、以前にインストールされた機能が修復されます。

注：このオプションは、Microsoft Windows サーバでのみ使用できます。

CA Business Intelligence の現在インストールされているバージョンを判断する

バージョン情報は、CA Business Intelligence プロパティ ファイルに含まれています。

プロパティ ファイルを探してリリース情報を特定する

1. インストール場所に移動します。
2. デフォルトの場所は C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting です。
3. テキスト エディタで version.txt ファイルを開きます。
4. version.txt の最初の行「BIEK Version」が現在のバージョンを示します。

たとえば、2.0.0.10（完全な行では、「BIEK Version = 2.0.0.10」と表示されます）です。

インストールする CA Business Intelligence のバージョンを判断する

CA Business Intelligence をインストールする前に、インストールする CA Business Intelligence のバージョンを判断する必要があります。

CA Business Intelligence コンポーネント:

CA Business Intelligence 2.0

Business Objects からの以下のコンポーネントおよびパッチが含まれています。

1. BusinessObjects XI R2 SP2
2. BusinessObjects XI R2 Service Pack 3
3. BusinessObjects XI R2 FP3.3

CA Business Intelligence 2.1

以下が用意されています。

1. BusinessObjects XI R2 SP2
2. Business Objects からの BusinessObjects XI Service Pack 4

インストーラのための情報の収集

インストーラを実行する前に CA Business Intelligence に必要な情報を特定するには、次のセクションを確認します。

インストール ワークシートは、本書のアプリケーション サーバおよび CMS の要件についての記述に記載されています。インストールを開始する前に、これらのワークシートを使用し、CA Business Intelligence のインストール、修正、または修復に必要な情報を記録します。これらのワークシートを印刷し、インストーラを実行する前に必要な情報を記録するために使用することができます。

BusinessObjects 管理者の認証情報

標準インストールおよびカスタム インストールのインストーラを実行する前に、BusinessObjects 管理者パスワードを指定する必要があります。

このパスワードは、大文字と小文字の混在する、6 文字以上の長さである必要があり、どのような形式でも administrator という言葉を含めることはできません。次の文字タイプの少なくとも 2 つを含める必要があります。

- 大文字
- 小文字
- 数値
- 句読点

Microsoft Windows インストール パス

Microsoft Windows にインストールする場合、標準インストールおよびカスタム インストールのインストーラを実行する前に CA Business Intelligence のインストール パスを指定する必要があります。

BEA WebLogic 管理者の認証情報

既存バージョンの BEA WebLogic が BusinessObjects とともに最初にインストールされていた場合、CA Business Intelligence の更新または修正時に WebLogic 管理者の認証情報の入力が必要とされます。これは、インストール時にパッチが適用されると、BusinessObjects の WAR ファイルが WebLogic サーバに再展開されるためです。

CA 共有コンポーネント

共有コンポーネントは、CA アプリケーション全体で使用されるコンポーネントです。ユーザがコンポーネントを構築する権限を持つ CA アプリケーションであれば、いずれのアプリケーションからも共有コンポーネントを使用できます。

CA 共有コンポーネントのロケーションを示す環境変数は、CA 共有コンポーネントを使用する最初の CA 製品によって設定されます。

UNIX/Linux でインストールする場合、インストール場所は必ず CA 共有コンポーネント ディレクトリの下です。まだディレクトリが作成されていない場合は、インストール時に CASHCOMP ディレクトリを入力するよう求められます。

レスポンス ファイル

サイレント インストールで使用するレスポンス ファイルには、インストールに関する質問に対する応答が記述されています。これらの応答内容は、GUI またはコンソール インストール時であればユーザが入力するものです。それぞれの応答内容は、レスポンス ファイル内で識別される変数の値として格納されます。

インストール ウィザードまたはコンソールによるインストールを実行する場合、インストール前の確認でレスポンス ファイルを作成するオプションが示され、保存先を入力するよう求められます。作成したレスポンス ファイルおよびその指定パラメータは、他のマシンでサイレント モードでのインストールを実行する場合に使用することができます。

GUI またはコンソール インストールの実行後に、レスポンス ファイルに格納された指定パラメータを修正する場合は、[Microsoft Windows](#) (41 ページ) および [Unix/Linux](#) (53 ページ) についての「レスポンス ファイルの修正」を参照してください。

アプリケーション サーバのワークシート

次のセクションのワークシートを使用し、CA Business Intelligence で使用するアプリケーション サーバのインストールおよび構成に必要な情報を特定することができます。

Apache Tomcat

Apache Tomcat についての必要な情報を収集する前に、インストーラで新規バージョンをインストールするか、または既存バージョンをアプリケーション サーバとして使用するかを決定します。

以下のワークシートのいずれか 1 つを完了します。

新規インストール

このワークシートを使用し、新規バージョンの Apache Tomcat のインストールを予定している場合に必要な情報を特定することができます。

必要な情報	使用する値
インストール パス(カスタム インストールのみ)	
デフォルト: C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting\Tomcat	
注: このデフォルトの展開ディレクトリは、BusinessObjects Enterprise XI r2 をインストールする場合のディレクトリと同じです。	
Tomcat 接続ポート	
デフォルト: 8080	
Tomcat リダイレクト ポート	
デフォルト: 8443	
Tomcat シャットダウン ポート	
デフォルト: 8005	

重要: CA Business Intelligence のインストーラでは、ファイアウォールに関する考慮事項として、インストール前に管理者がこれらのポートをオープンにすることが必要です。

既存バージョン

既存バージョンの Apache Tomcat の使用を予定している場合の情報の収集には、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
展開ディレクトリの場所	

デフォルト以外の名前の Apache Tomcat への展開

Apache Tomcat をサービスとして実行し、デフォルトのサービス名以外の名前を使用する場合、BusinessObjects の Web アプリケーションを手動で展開するために、いくつかの手動の手順を実行する必要があります。

Apache Tomcat 5.0 および 5.5 のデフォルトの Windows サービス名は Tomcat5 です。

ユーザは Tomcat Windows Service Installer を使用し、Apache Tomcat Windows サービスのみをインストールすることも、Apache Tomcat をフルでインストールしてから Windows サービスをインストールする(service.bat を実行)こともできます。

BusinessObjects の Web アプリケーションを手動で展開する方法

1. 展開ディレクトリが BusinessObjects インストール ディレクトリに存在しない場合、`¥redist` フォルダにある `wdeploy.zip` を、BusinessObjects インストール ディレクトリに解凍します。

`¥deployment` という名前のフォルダが BusinessObjects インストール ディレクトリに作成されます。

2. `$JAVA_HOME` が JDK 1.5 のホーム ディレクトリに設定されていることを確認します。
3. コマンド プロンプトを開き、BusinessObjects インストール ディレクトリの下 `¥deployment` フォルダに移動します。
4. 以下のコマンドを入力します。

```
wdeploy tomcat_type -Das_mode=standalone -Das_dir="tomcat_directory" -Das_service_name=tomcat_service_name
deployall
```

tomcat_type

Apache Tomcat の種類を指定します。以下の項目を入力します。

- Apache Tomcat 5.0: **tomcat** と入力します。
- Apache Tomcat 5.5: **tomcat55** と入力します。

tomcat_directory

Apache Tomcat の完全修飾のインストール ディレクトリを指定します。

tomcat_service_name

使用している Apache Tomcat のサービス名を指定します。

wdeploy の既知の問題のため、Apache Tomcat 5.5 を使用していて以前に wdeploy が実行された場合、wdeploy を実行する前に <tomcat dir>%conf%server.xml ファイルを修正する必要があります。以下の手順に従います。

1. テキスト エディタで server.xml を開きます。
2. 以下のエンティティを削除します。
 - <Context path="/businessobjects/enterprise115/adhoc" docBase="C:/PROGRA~1/CA/SC/COMMON~1/deployment/workdir/tomcat55/application/adhoc.war" reloadable="true"/>
 - <Context path="/businessobjects/enterprise115/adminlaunch" docBase="C:/PROGRA~1/CA/SC/COMMON~1/deployment/workdir/tomcat55/application/admin.war" reloadable="true"/>
 - <Context path="/businessobjects/enterprise115/desktoplaunch" docBase="C:/PROGRA~1/CA/SC/COMMON~1/deployment/workdir/tomcat55/application/desktop.war" reloadable="true"/>
3. server.xml を保存します。

Apache Tomcat をプロセスとして実行する場合、Apache Tomcat の完全インストールを実行する必要があります。

<tomcat dir>%bin には、Microsoft Windows の場合は catalina.bat が、Linux/Unix の場合は catalina.sh が含まれます。Apache Tomcat 5.5 を使用している場合、JAVA_HOME システム環境変数を JAVA 5.0 の jdk または jre のパスに設定する必要があります。

BEA WebLogic

既存バージョンの BEA WebLogic をアプリケーション サーバとして構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
展開ドメイン パス	
WebLogic ポート	
デフォルト: 7001	
WebLogic 管理者 ID	
デフォルト: weblogic	
WebLogic 管理者パスワード	
WebLogic 管理サーバ名	
デフォルト: BIEK	

必要な情報	使用する値
すでにインストールされている WebLogic サーバのバージョン	
デフォルト: 9	

IBM WebSphere

既存バージョンの IBM WebSphere をアプリケーション サーバとして構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
インストール ディレクトリ	
WebSphere サーバ名	
デフォルト: server1	

タイミングの考慮事項

IBM WebSphere で CA Business Intelligence を使用する場合のタイミングの問題を回避するために、WebSphere を起動する前に以下の手順を実行します。

IBM WebSphere について正しい設定を入力するには、以下の手順に従います。

1. IBM WebSphere のインストール場所(たとえば /opt/WebSphere/AppServer/properties)に移動します。
2. ファイル soap.client.props を開き、[SOAP Request Timeout]セクションを見つけます。
3. 次のプロパティに値ゼロ(0)を割り当てます。
com.ibm.SOAP.requestTimeout

パッチの考慮事項

アプリケーション サーバとして IBM WebSphere を使用する CA Business Intelligence がインストール済みで、BusinessObjects Enterprise XI にパッチを適用する場合、パッチを実行する前に次の BusinessObjects Enterprise XI アプリケーションを削除する必要があります。

- adhoc
- admin
- analysishelp
- dswsbobje
- infoview
- jsfadmin
- styles
- webcompadapter

これらのアプリケーションは、BusinessObjectsEnterprise XI インストールの最後に WebSphere に展開されます。IBM WebSphere Administrative コンソールは、これら特定のアプリケーションを削除する目的でのみ使用してください。

重要: BusinessObjects の Web アプリケーションの展開後、WebSphere サーバを手動で再起動する必要があります。

フォルダの手動削除

CA Business Intelligence のアンインストール後、インストール ディレクトリに残ったままになるファイル (bobje など) があります。これらのファイルは手動で削除する必要があります。

BusinessObjects の Web アプリケーションが WebSphere サーバに展開されている場合、bobje フォルダを削除可能にするには、まず WebSphere サーバを停止する必要があります。

Microsoft IIS

CA Business Intelligence のインストールを開始する前に、ASP (Active Server Pages) で Microsoft IIS を登録する必要があります。Microsoft IIS が ASP で登録されていない場合、インストールを開始する前に次のコマンドを実行します。

```
regsvr32 "C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\v1.1.4322\aspnet_isapi.dll
```

Microsoft IIS の情報は Windows レジストリから収集されます。ユーザが他の情報を入力する必要はありません。

データベース要件

CA Business Intelligence と統合するデータベースを作成する前に、以下のセクションで、データベース作成時に必要な設定、および CA Business Intelligence のインストールを開始する前にテストが必要な設定について確認します。

詳細情報

[Central Management Server](#) (8 ページ)

[監査](#) (8 ページ)

Unicode 文字エンコード

データベースのクライアントおよびサーバが、Unicode 文字エンコード (UTF-8 など) を使用するように構成されていることを確認します。Unicode 構成に必要な設定を特定するには、データベースのマニュアルを参照してください。

データベース クライアントについては、特定のパラメータを設定する必要があります。たとえば DB2 クライアントでは、1208 という値の DB2CODEPAGE を使用する必要があります。通常、Sybase データベース クライアントでは、パラメータ LC_ALL および locale.dat ファイルの適切なエントリが必要です。

Oracle、Sybase などのデータベース サーバをインストールする場合、文字データ タイプとして Unicode エンコードを使用するようにサーバを構成する必要があります。DB2 など他のデータベースの場合、既存のデータベース サーバで、Unicode 設定の CMS データベースを作成することができます。

ライブラリ パスの指定

CA Business Intelligence では、32 ビット データベース クライアントが必要です。ライブラリ パスは 32 ビット クライアント ライブラリをポイントするように設定する必要があります。

MySQL

MySQL データベースで、BusinessObjects Enterprise の実行の際に設定する必要があるパラメータは、UTF-8 の設定のみです。[「Unicode 文字エンコード」](#) (22 ページ) を参照してください。

MySQL ワークシート

MySQL を CMS としてインストール および構成を実行するために必要な情報を特定するには、次のワークシートのいずれか 1 つを使用します。

MySQL で必要な情報を収集する前に、インストール ウィザードで新規バージョンをインストールするか、既存バージョンを使用するかを決定します。

新規インストール

新規バージョンの MySQL のインストールを予定している場合に必要な情報を特定するには、次のワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。 監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
MySQL root ユーザ パスワード	
ユーザ名	
パスワード	
データベース名	

MySQL データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します(CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
MySQL ホスト名	
ポート番号	
ユーザ名	
パスワード	
データベース名	

既存バージョン

既存バージョンの MySQL の使用を予定している場合の情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
MySQL ホスト名	
[ポート番号]	
ユーザ名	
パスワード	
データベース名	

MySQL データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します (CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
MySQL ホスト名	
[ポート番号]	
ユーザ名	
パスワード	
データベース名	

Oracle

Oracle データベースで、BusinessObjects Enterprise の実行の際に設定する必要があるパラメータは、UTF-8 の設定のみです。ただし、BusinessObjects Enterprise のインストーラを開始する前に、Oracle の環境変数が正しく設定されていることを確認する必要があります。

Oracle ワークシート

既存バージョンの Oracle を CMS として構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
TNS 名	
ユーザ名	
パスワード	

Oracle データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します (CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
TNS 名	
ユーザ名	
パスワード	

Microsoft SQL Server

Microsoft SQL データベースで、BusinessObjects Enterprise の実行の際に設定する必要があるパラメータは、UTF-8 の設定のみです。

Microsoft SQL ワークシート

既存バージョンの Microsoft SQL Server を CMS として構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
DSN 名	
データベース名	
ユーザ名	
パスワード	

Microsoft SQL Server データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します (CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
DSN 名	
データベース名	
ユーザ名	
パスワード	

IBM DB2

BusinessObjects Enterprise のインストールで、DB2 データベースを使用する場合は、データベース作成時に選択する必要がある特定の設定項目があります。

重要: データベース作成後にはこれらの設定を修正できません。

BusinessObjects Enterprise で使用するデータベースを作成する場合

- CMS データベースがパーティションされていないことを確認してください。

IBM DB2 CMS データベースがパーティションされている場合、CMS データベースの作成で問題が発生します。

注: この要件は、監査データベースには適用されません。必要に応じて、パーティションされた IBM DB2 database を監査データベースに使用することができます。

- 以下に指定された設定でデータベースを作成します。

```
Collating Sequence="Identity"  
Codeset="UTF-8"  
Territory="xx"
```

IBM DB2 データベースの照合順序が正しく設定されていない場合、ユーザおよびユーザグループ オブジェクトは Central Management Console (ユーザ ロール、セキュリティ アクセス、サーバ管理、パスワード管理などの設定を含むタスクを制御する BusinessObjects 管理環境)で正しく並べ替えられないことがあります。

XX

使用する場所のコード セットおよびコードページに対応したコード。詳細については、IBM DB2 のマニュアルを参照してください。

- IBM DB2 データベースのクライアントおよびサーバが、Unicode 文字エンコード (UTF-8 など)を使用するように構成されていることを確認します。[「Unicode 文字エンコード」](#)(22 ページ)を参照してください。

注: IBM DB2 8.1 を使用している場合、SQL スタアド プロシージャをビルドするためにインストールおよび構成されている C コンパイラが必要です。IBM DB2 8.2 ではこの要件はありません。SQL スタアド プロシージャは、CMS でユーザがグループに追加される場合に BusinessObjects Enterprise で使用されます。SQL スタアド プロシージャのために C コンパイラを構成する方法、および使用しているプラットフォームでサポートされる C コンパイラのバージョンを特定する方法の詳細については、IBM DB2 のマニュアルを参照してください。

IBM DB2 ワークシート

既存バージョンの IBM DB2 を CMS として構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。 監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
データベース エイリアス	
ユーザ名	
パスワード	

IBM DB2 データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します (CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
データベース エイリアス	
ユーザ名	
パスワード	

Sybase

Sybase を使用している場合、CMS のためのデータベース作成時、ページ サイズが 8 KB に設定されるようにします。

注: Sybase データベースのデフォルトのページ サイズは 2KB ですが、CMS には小さすぎます。CMS を最適に実行するには、ページ サイズを 8KB にする必要があります。ページ サイズはデータベース作成時に設定され、データベース設定後は変更できません。

Sybase データベースのクライアントおよびサーバが、Unicode 文字エンコード (UTF-8 など) を使用するように構成されていることを確認します。[「Unicode 文字エンコード」](#) (22 ページ) を参照してください。

Sybase ワークシート

既存バージョンの Sybase を CMS として構成するために必要な情報を収集するには、このワークシートを使用します。

必要な情報	使用する値
データベースについて監査を有効にするかどうかを指定します。	Yes または No
有効にする場合、CMS について定義されている監査データベースの設定と同じ設定を使用するかどうかを決定します。同じ設定を使用する場合、インストーラは CMS について指定されている情報を取得し、監査データベースに使用します。 監査データベースについて新規設定を入力する場合、次のワークシートを参照してください。	
データベース エイリアス	
ユーザ名	
パスワード	

Sybase データベース のインストールで、監査の設定が正しく行われるようにするには、監査データベースについて以下の項目を指定します (CMS で定義されている設定を使用しない場合)。

必要な情報	使用する値
データベース エイリアス	
ユーザ名	

必要な情報	使用する値
パスワード	

メディアの内容

BIEK r2 は 5 枚の DVD メディア セットで供給されます。セットには、オペレーティング システムにつき 1 枚の DVD が含まれます。

ドキュメント ロードマップまたは別のドキュメントのダウンロード

BusinessObjects には、タスク ベース形式で利用可能なガイドの広範な情報を提供するドキュメント ロードマップがあります。ドキュメント セットに慣れ親しむための開始点として、ロードマップを使用してください。

この手順を使用すると、ロードマップに一覧表示されているすべてのドキュメントをダウンロードできます。

ドキュメント ロードマップをダウンロードする方法

1. Web ブラウザを開いて SAP ヘルプ ポータル、
<http://help.sap.com/> にアクセスします。
2. ページの一番上にある[SAP BusinessObjects]タブをクリックします。
3. ドロップダウン リストから以下の項目を選択します。

言語: 日本語

Product: BusinessObjects Enterprise

バージョン: BusinessObjects XI リリース 2

注: パッチ固有のドキュメントをダウンロードする場合は、[バージョン]ドロップダウン リストから適切なパッチ番号を選択します。

4. 以下のドキュメントの PDF アイコンを右クリックします。

BusinessObjects XI Release 2 Product Documentation Roadmap

注: 同様に、別のドキュメントをダウンロードする場合は、そのドキュメントの PDF アイコンを右クリックします。

5. ポップアップ ダイアログで、メニュー項目を選択して PDF ファイルをローカルに保存します。

注: ヘルプ システムの更新は、Business Objects Web サイトから利用することはできません。パッチの更新に提供されます。

第 2 章: CA Business Intelligence インストール要件

CA Business Intelligence を使用するには、次のインストール要件を満たす必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[プラットフォーム固有の要件 \(33 ページ\)](#)

[サーバ プラットフォーム サポート \(34 ページ\)](#)

[CA Business Intelligence システム要件 \(34 ページ\)](#)

プラットフォーム固有の要件

本書では、CA Business Intelligence のインストールに必要な一般的なシステム要件について説明します。ただし、パッチ仕様、ブラウザ サポート、サービス パック更新などの追加詳細情報は Business Objects により提供されます。CA Business Intelligence を正常にインストールするには、CA Business Intelligence のインストーラを実行する前に、プラットフォーム固有の要件を慎重に確認することが重要です。

Business Objects の Website にある次のホワイト ペーパーを参照してください。

Linux

http://support.businessobjects.com/communityCS/TechnicalPapers/boe_xi_r2_supported_platforms_linux_sp3.pdf.asp

AIX

http://support.businessobjects.com/communityCS/TechnicalPapers/boe_xi_r2_supported_platforms_aix_sp3.pdf.asp

HP-UX

http://support.businessobjects.com/communityCS/TechnicalPapers/boe_xi_r2_supported_platforms_hpux_sp3.pdf.asp

Solaris

http://support.businessobjects.com/communityCS/TechnicalPapers/boe_xi_r2_supported_platforms_solaris_sp3.pdf.asp

Microsoft Windows

http://support.businessobjects.com/communityCS/TechnicalPapers/boe_xi_r2_supported_platforms_windows_sp3.pdf.asp

サーバ プラットフォーム サポート

注: BusinessObjects ではサポートされているプラットフォームの一覧を定期的に更新しています。詳細については、<http://www.businessobjects.com/> を参照してください。

次のサーバ プラットフォームは、BusinessObjects によりサポートされるプラットフォームを示します。

OS	リリース	バージョン/レベル
Microsoft Windows 2000	Advanced Server	SP4
Microsoft Windows 2000	DataCenter Server	SP4
Microsoft Windows 2000	Server	SP4
Microsoft Windows 2003 Server	Enterprise Edition	R2
Microsoft Windows 2003 Server	Datacenter Edition	SP1 および SP2
Microsoft Windows 2003 Server	Enterprise Edition	SP1 および SP2
Microsoft Windows 2003 Server	Standard Edition	SP1 および SP2
Microsoft Windows 2003 Server	Web Edition	SP1 および SP2
Linux Red Hat	Advanced and Enterprise Server for x86	4.0
Linux SuSe	Enterprise Server for x86	9
UNIX Solaris	For SPARC	8、9、および 10
UNIX AIX	5L	5.2 および 5.3
UNIX HP-UX	PA-RISC	11.11 および 11.23

注: Microsoft Windows への CA Business Intelligence のインストールを正常に実行するには、インストールを実行するユーザはローカルの管理者グループのメンバーである必要があります。

CA Business Intelligence システム要件

以下のセクションでは、ハードウェアおよびソフトウェアの要件について記載します。

オペレーティング システム

CA Business Intelligence には、次のオペレーティング システムを推奨します。

注：各プラットフォームに指定されているディスク容量は、Business Objects Enterprise XI およびサービス パック 3 のインストールに必要な容量の合計です。Business Objects により提供されている追加パッチでは、追加のディスク容量が必要な場合があります。

Microsoft Windows

CA Business Intelligence をインストールする Windows システムは、少なくとも次のシステム要件を満たす必要があります。

CPU

P3 700 MHz

メモリ

2 GB RAM

ディスク上の空き容量

8.5 GB

DVD-ROM

Linux

CA Business Intelligence をインストールする Linux システムは、少なくとも次のシステム要件を満たす必要があります。

CPU

P3 700 MHz

メモリ

1 GB RAM

ディスク上の空き容量

5.5 GB

DVD-ROM

Solaris

CA Business Intelligence をインストールする Solaris システムは、少なくとも次のシステム要件を満たす必要があります。

CPU

SPARC v8plus

メモリ

512 MB の RAM

ディスク上の空き容量

6.75 GB

DVD-ROM

AIX

CA Business Intelligence をインストールする AIX システムは、少なくとも次のシステム要件を満たす必要があります。

CPU

1 CPU、Power 4

メモリ

2 GB RAM

ディスク上の空き容量

10 GB

DVD-ROM

HP-UX

CA Business Intelligence をインストールする HP-UX システムは、少なくとも次のシステム要件を満たす必要があります。

CPU

11.11 PA-RISC

メモリ

2 GB RAM

ディスク上の空き容量

7 GB

DVD-ROM

サポート対象データベース

MySQL をインストールしない場合は、互換性のあるデータベース サーバがインストールされ、CMS 用に構成されている必要があります。

プロバイダ名	データ コネクタ
IBM DB2/UDB for NT/Unix 8.1	DB2 Client 8.1
IBM DB2/UDB for NT/Unix 8.2	DB2 Client 8.2
IBM DB2/UDB for NT/Unix/Linux 9.1	DB2 Client 9.1
MS SQL Server 2000 SP4	Microsoft ODBC MDAC 2.8
MS SQL Server 2005	Microsoft ODBC MDAC 2.8 Microsoft ODBC SNAC (ネイティブ クライアント)
MS SQL Server 7.0 SP4	Microsoft ODBC MDAC 2.7
MySQL 4.1.13	MySQL C-API
Oracle 10g R1 (10.1)	Oracle Net Client 10.1
Oracle 10g R2 (10.2)	Oracle Net Client 10.2
Oracle 9.2	Oracle Net Client 9.2
Sybase ASE 12.5.2	Sybase Open Client 12.5.2

詳細情報

[データベース要件 \(22 ページ\)](#)

[Central Management Server \(8 ページ\)](#)

[監査 \(8 ページ\)](#)

サポートされるアプリケーション サーバ

CA Business Intelligence のインストーラで Apache Tomcat をインストールしない場合、互換性のあるアプリケーション サーバがすでにインストールされていることが必要です。以下のアプリケーション サーバがサポートされています。

アプリケーション サーバ	JDK
Microsoft IIS 5.0 (Windows のみ)	なし
Microsoft IIS 6.0 (Windows のみ)	なし
Apache Tomcat 5.0.27	1.4.2_08+

アプリケーション サーバ	JDK
	1.5.0_xx
Apache Tomcat 5.5	1.5.0_xx
BEA WebLogic 8.1 SP4	1.4.2_x
BEA WebLogic 9.2	1.5.0_4+
BEA WebSphere 5.1.0.4	1.4.1_x
BEA WebSphere 5.1.1.x (5.1.1.4 を除く)	1.4.2_x
BEA WebSphere 6.0.0.2	1.4.2_x
BEA WebSphere 6.1.0.7	1.5.0_xx

第 3 章: Microsoft Windows でのインストール

以下のセクションでは、CA Business Intelligence を Microsoft Windows にインストールする方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft Windows の権限](#) (39 ページ)

[Microsoft Windows へのインストール方法](#) (39 ページ)

[Microsoft Windows でのアンインストール](#) (46 ページ)

Microsoft Windows の権限

Microsoft Windows への BusinessObjects Enterprise のインストールを成功するには、プログラムを実行するユーザがローカルの管理者グループのメンバであることが必要です。

以下はサポートされていません。

- ドメイン コントローラへのインストール。
- ローカルの管理者グループに与えられた Windows のデフォルトのセキュリティ設定が修正されたマシンへのインストール。

Microsoft Windows へのインストール方法

CA Business Intelligence を Microsoft Windows にインストールするには、以下の手順に従います。

1. [「インストール前チェックリスト」](#) (10 ページ)を確認します。
2. インストールのための前提条件をすべて確認するようにしてください。 [「インストーラのための情報の収集」](#) (15 ページ)を参照してください。
3. インストール ウィザード、コンソール インストール、またはサイレント インストールにより、CA Business Intelligence のインストールを実行します。詳細については、以下を参照してください。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードの実行

Microsoft Windows 用の CA Business Intelligence DVD の Disk1¥InstData フォルダにある install.exe で、CA Business Intelligence のインストール ウィザードを実行します。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Microsoft Windows 用の CA Business Intelligence DVD を挿入し、Disk1¥InstData¥VM フォルダを開きます。
3. install.exe をダブルクリックします。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードが開始します。

以下の方法でも、インストール ウィザードを開始できます。

1. DOS コマンド プロンプトを開きます。
2. 以下を入力します。

Disk1¥InstData¥VM¥install.exe

CA Business Intelligence のインストール ウィザードが開始します。

インストール ウィザード パネルの指示に従い、また準備済みのワークシートを使用し、ウィザード パネルを完了します。

完全なカスタム インストールの実行の詳しい手順については、[「カスタム インストールの詳細」](#)(63 ページ)を参照してください。

コンソール インストールの実行

コンソール インストールは、コマンド ライン プロンプトが入力データについて提供されている場合の、CA Business Intelligence をインストールするための別の方法です。

コンソール インストールを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Microsoft Windows 用の CA Business Intelligence DVD を挿入します。
3. コマンド プロンプトで、以下を入力します。

Disk1¥InstData¥VM¥install.exe -i console

CA Business Intelligence のインストールが開始します。

4. 各入力プロンプトについて、準備済みのワークシートを使用し、必要な値を指定します。

サイレント インストールの実行

サイレント インストールは、レスポンス ファイルで提供される値を使用し、コマンド ラインから実行するインストールです。ユーザに入力を求めることはありません。

レスポンス ファイルで提供される値を使用してサイレント インストールを実行するには、コマンド プロンプトを使用して、`install.exe` が含まれるディレクトリに移動する必要があります。

CA Business Intelligence のサイレント インストールを実行する方法

1. DOS コマンド プロンプトを開きます。
2. ディレクトリを `.../Disk1/InstData/VM` に変更します。
3. 以下のコマンドを入力します。

```
Disk1¥InstData¥VM¥install.exe -f <レスポンス ファイルへのパス>
```

レスポンス ファイルへのパス

レスポンス ファイルの完全パスを指定します。レスポンス ファイルは同じディレクトリにある必要はありません。どこの場所に配置してもどのような名前でも許容されます。

レスポンス ファイルの詳細については、[「レスポンス ファイル」](#) (16 ページ) を参照してください。

CA Business Intelligence のインストールが開始します。

レスポンス ファイルの修正

レスポンス ファイルの作成後、テキスト エディタを使用して設定を修正することができます。ファイルのデフォルトのパラメータは、インストール ウィザードによる初期インストールで入力された値を反映します。システム構成ごとに、レスポンス ファイルには別々のパラメータが定義されています(たとえば、Unix/Linux および Windows のディレクトリパス)。デフォルト値を環境に最適な値に変更します。

注: レスポンス ファイルの変更は、現在のインストールにどのような形でも影響を与えません。レスポンス ファイルは他のマシンへの新規インストールで使用されます。

レスポンス ファイルを編集する場合、以下のガイドラインに従います。

- このファイルを修正する前に、保管のために元のファイルのバックアップを作成します。
- レスポンス ファイルで提供される現在のシステム設定およびコメントに基づいて変更します。
- 変更後のファイルを保存します。

例

CA Business Intelligence の初期の標準インストールで作成されるレスポンス ファイルの例を以下に示します。

```
#####
# This is an InstallAnywhere variable that enables the installer to run in #
# silent mode and uses this properties file as the input #
# DO NOT MODIFY THIS VALUE #
#####

INSTALLER_UI=silent

#####
# INSTALLATION OPTIONS #
#####
#####
#####
#NOTE:For licensing purposes the installation should not be run if a NON CA BusinessObjects XI is already#
#installed on the machine / system. #
#####
#####

#This property indicates if the installer machine already has a CA BusinessObjects installed or not.
#Valid values => false {for TYPICAL or CUSTOM install set} or true {for UPDATE, MODIFY or REPAIR install set}
#This property will be verified in the installer.
#For example, if the CHOSEN_INSTALL_SET is UPDATE and this property is set to true, the installer still verifies that
#CA BOXI is installed. If no CA BOXI is found, no update will be attempted.
IS_CA_BOXI_INSTALLED=false

#The chosen Install set value can be TYPICAL, CUSTOM, UPDATE, MODIFY
# and REPAIR {REPAIR is available only on Windows}
CHOSEN_INSTALL_SET=TYPICAL

#Destination Location #
# This value will be used only in Windows system #
USER_INSTALL_DIR=C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting

# This is the BusinessObjects Installer source folder #
BIEK_SOURCE_DIR = C:\CABI_Installer\Disk1\InstData\VM\.\.\cabi

# This is the folder for BIEK API. #
# Its value is usually $BIEK_SOURCE_DIRS/biek #
BIEK_PATH_DIR = C:\CABI_Installer\Disk1\InstData\VM\.\.\cabi\biel

#####
# Password for BusinessObjects XI's Administrator user #
# This value will be used to set the Administrator password #
# during TYPICAL or CUSTOM install sets #
# The password should be atleast 6 characters long #
```

```
# The password can not contain 'administrator' in any form      #
# The password has to have at least two of the following      #
# types of characters                                          #
# - Uppercase                                                  #
# - Lowercase                                                  #
# - Number                                                    #
# - Punctuation                                               #
#####

BIEK_BO_ADMIN_PASSWORD=CABlbo

#####
# Parameters specifically needed #
# only for non Windows OS      #
#####

# The CA Business Intelligence installer should be run as the 'root' user.
# The CA Business Intelligence wraps the BusinessObjects installation program that
# needs to run as a non-root user.
# Enter credentials for a valid non-root user.
CABI_NONROOT_USER=
CABI_NONROOT_GROUP=

#The following value will be used to set the CASHCOMP dir if one is not already
# defined in the current environment.
BIEK_CASHCOMP_USER_DEFINED=

##### END NON WINDOWS SPECIFIC PARAMETERS #####

# Port to be used by the Central Management Server
#Default value is 6400
#This value can be changed only on NON WINDOWS OS
BIEK_PARAM_CMSPORT = 6400

#####
# The Locale code for the BO install #
#####
# English   = en
# French    = fr
# German     = de
# Spanish   = es
# Japanese  = ja
# Simplified
# Chinese   = zh_CN
# Traditional
# Chinese   = zh_TW
# Korean    = ko
# Dutch     = nl
# Swedish   = sv
# Italian   = it
```

```
# Portugese = pt
INSTALLER_LOCALE = en

#####
# Set CMS Database parameters #
#                               #
#####

# should mysql be installed? The value can be true or false.
BIEK_INSTALL_MYSQL = true

# CMS DB TYPE can be MYSQL, MSSQL, DB2, ORACLE or SYBASE
BIEK_CMS_DB_TYPE = MYSQL

# MySQL root password
BIEK_MYSQL_ROOT = root

# User id to be used for MYSQL, DB2, MSSQL, ORACLE, SYBASE
BIEK_CMS_USER = businessobjects

# Password to be used for MYSQL, DB2, MSSQL, ORACLE, SYBASE
BIEK_CMS_PASSWORD = businessobjects

# CMS database name for MYSQL, MSSQL
BIEK_CMS_DB = $BIEK_CMS_DB$

# Database alias for DB2 / SYBASE, database server name for MYSQL, TNS name for ORACLE
BIEK_CMS_SRV = BOE115

# MSSQL DSN
BIEK_CMS_DSN =

# MYSQL server port number, needed for existing MYSQL installation
BIEK_CMS_PORT =

#####
# Set Audit database parameters #
#                               #
#####

# enable auditing for BO
BIEK_ENABLE_AUDITING = true

# User id to be used for MySQL, DB2, MSSQL, ORACLE,
BIEK_AUDIT_USER = businessobjects

# Password to be used for MySQL, DB2, MSSQL, ORACLE,
BIEK_AUDIT_PASSWORD = businessobjects

# database name for MySQL, MSSQL
```

```
BIEK_AUDIT_DB = BOE115_Audit

# DB2 database alias, MYSQL server host name, ORACLE TNS name, SYBASE database alias
BIEK_AUDIT_SRV =

# MSSQL DSN name
BIEK_AUDIT_DSN =

# MYSQL server port number
BIEK_AUDIT_PORT =

#####
# WEB SERVER PROPETIS      #
#####

# Do you want BO to install Tomcat
BIEK_INSTALL_TOMCAT = true

# install .NET for IIS?
BIEK_INSTALL_DOTNET = false

# WEB SERVER TYPE can be TOMCAT, WEBLOGIC, WEBSHERE or IIS
CABI_WEB_SERVER_TYPE=TOMCAT

#####
#   POST_INSTALL FUNCTIONS      #
#####

#####
# BO Tomcat Installation      #
# New or Existing            #
#####

# BO Tomcat directory either for new installation or for existing TOMCAT installation
BIEK_TOMCAT_DIR = C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting\Tomcat

#Following TOMCAT values are needed only for a new TOMCAT installation.

# BO Tomcat Connection Port
BIEK_TOMCAT_CONNECTION_PORT = 8080

# BO Tomcat Redirect Port
BIEK_TOMCAT_REDIRECT_PORT = 8443

# Bo Tomcat Shutdown port
BIEK_TOMCAT_SHUTDOWN_PORT = 8005

#####
# Deploy to Existing          #
# Application Server          #
```

```
#####  
  
# Target if deploying to a Websphere server  
BIEK_DEPLOY_WEBSPHERE_DIR =  
  
# Websphere Server Name  
BIEK_DEPLOY_WEBSPHERE_SRV =  
  
# Target if deploying to a WebLogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_DIR =  
  
# Port number of weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_PORT =  
  
# Admin user name for weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_USER =  
  
# Admin user password for weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_PWD =  
  
# Name of weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_SRV =  
  
# Version of weblogic server ( 8 or 9)  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_VERSION =  
  
#####  
# Properties that control the log messages from BIEK API #  
#####  
  
BIEK_LOG_FILE=C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting\ca-install.log  
BIEK_DEBUG_ON=true
```

Microsoft Windows でのアンインストール

システム上不要になった場合は、CA Business Intelligence をアンインストールします。以下のセクションでは、CA Business Intelligence および付属マニュアルを Microsoft Windows からアンインストールする方法について説明します。

アンインストールの種類

CA Business Intelligence ではアンインストールについて 2 つのオプションを提供しています。

完全アンインストール

このオプションでは、CA Business Intelligence のすべての機能およびコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルおよびフォルダは影響を受けません。

特定の機能のアンインストール

このオプションでは、CA Business Intelligence のアンインストールする特定の機能を選択できます。

注: サイレント アンインストールでは特定の機能のアンインストールができず、完全アンインストールのみを実行できます。

GUI によるアンインストール

インストーラが GUI モードで実行された場合のみ、デフォルトで GUI モードでアンインストール プロセスが開始します。

GUI により CA Business Intelligence をアンインストールする方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. (インストール場所が `C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting` である場合) `C:\Program Files\CA\SC` の下にある `CommonReporting` フォルダを開きます。
3. `Uninstall CA Business Intelligence.exe` をダブルクリックします。

サイレント インストールまたはコンソール インストールのどちらかでインストーラを実行した場合、`Uninstall CA Business Intelligence.exe` をダブルクリックすると、アンインストール プロセスはサイレント モードでのみ開始します。このシナリオでは、GUI を使用してアンインストールを開始する場合、以下の手順に従います。

1. DOS コマンド プロンプトを開きます。
2. 以下を入力します。

```
C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting>Uninstall CA Business Intelligence\Uninstall CA Business Intelligence.exe -i swing
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

コンソールによるアンインストール

GUI により CA Business Intelligence をアンインストールする方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. DOS コマンド プロンプトを開きます。
3. (インストール場所が C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting である場合) C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting の下にある Uninstall CA Business Intelligence フォルダに移動します。
4. 以下を入力します。

```
Uninstall CA Business Intelligence.exe -i console
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

サイレント アンインストールの実行

CA Business Intelligence のサイレント アンインストールを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. DOS コマンド プロンプトを開きます。
3. (インストール場所が C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting である場合) C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting の下にある Uninstall CA Business Intelligence フォルダに移動します。
4. 以下を入力します。

```
Uninstall CA Business Intelligence.exe -i silent
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

CA Business Intelligence がサイレント インストールまたはコンソール インストールでインストールされた場合、以下の方法でもサイレント アンインストールを実行できます。

1. DOS コマンド プロンプトを開きます。
2. 以下を入力します。

```
C:\Program Files\CA\SC\CommonReporting\Uninstall CA Business Intelligence\Uninstall CA Business Intelligence.exe
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

手動アンインストール

CA Business Intelligence を手動でアンインストールする方法

1. **BusinessObjects** パッチがインストールされているかどうかを確認します。インストールされている場合、逆の順序でパッチをアンインストールします。
 - a. 製品をインストールした **CommonReporting** ディレクトリで **biek.properties** ファイルを見つけます。
 - b. **biek.properties** ファイルを見つけた場合、テキスト エディタでファイルを開き、**[Patches]**セクションに移動します。「**Patch1**」、「**Patch2**」などで開始するラインがある場合、パッチがインストールされています。パッチ ファイルを逆の順序 (**Patch3**、**Patch2** など)でメモしておきます。
 - c. **biek.properties** ファイルが見つからない場合、フォルム **C_patch.zip** のある **CommonReporting** ディレクトリを検索します。**patch** は、インストールされているパッチの名前です。これらのファイルは、インストール時に **CommonReporting** に配置されます。**SP3** パッチのファイルは「**C_SP3patch.zip**」、**FP 3.3** のファイルは「**C_FP3_3.zip**」です。**FP 3.3** の場合、最初の **3** は **SP 3** が必要である、つまり **FP 3.3** は **SP 3** より後にインストールされたことを示します。パッチ ファイルを逆の順序 (**FP 3.3**、**SP3**、**SP2** など)でメモしておきます。
2. **CommonReporting** ディレクトリにある **patch.properties** ファイルを見つけます。ファイルがディレクトリにない場合、**Disk1¥cabi¥patch** ディレクトリのインストール メディアにファイルを見つけることができます。
3. テキスト エディタを使用して **patch.properties** ファイルを開き、**BusinessObjects** パッチのインストールおよびアンインストールの命令を表示します。命令は複数のセクションから構成され、1 つのセクションが 1 つのパッチを示します。
4. 最後のパッチが適用されるセクションに移動します。
5. セクション内で、「**UNINSTALL_WIN=**」で開始するラインに移動します。このラインの残りの部分は、ラインが関連するパッチのアンインストールのためのコマンドです。
6. **CMD** ウィンドウでコマンドを実行します。
7. 各パッチについて手順 4 ~ 6 を繰り返します。
8. 以下のコマンドを実行し、**BusinessObjects** をアンインストールします。

```
msiexec /x {1FF06B85-EB4F-400D-8602-30A1DD48673B}
```


第 4 章: UNIX および Linux でのインストール

以下のセクションは、CA Business Intelligence を UNIX および Linux オペレーティングシステムにインストールする方法について説明します。

注: どちらの環境でもインストーラは同じように機能します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ルート/ルート以外の認証情報 \(51 ページ\)](#)

[UNIX および Linux でのインストール方法 \(51 ページ\)](#)

[UNIX および Linux でのアンインストール \(58 ページ\)](#)

ルート/ルート以外の認証情報

UNIX および Linux で、BusinessObjects はルート アプリケーションとしてインストールすることはできません。インストーラはルートとして実行することが必要であるため、CA インストールの「ルートとして実行」の部分が完了すると、BusinessObjects インストールを実行するためにルート以外の認証情報に切り替わります。

UNIX および Linux でのインストール方法

UNIX および Linux に CA Business Intelligence をインストールするには、以下の手順に従います。

1. [「インストール前チェックリスト」](#)(10 ページ)を確認します。
2. インストールのための前提条件をすべて確認するようにしてください。[「インストーラのための情報の収集」](#)(15 ページ)を参照してください。
3. インストール ウィザード、コンソール インストール、またはサイレント インストールにより、CA Business Intelligence のインストールを実行します。詳細については、以下を参照してください。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードの実行

CA Business Intelligence のインストール ウィザードは Bourne シェル スクリプト `install.bin` で実行します。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. UNIX/Linux 用の CA Business Intelligence DVD を挿入し、Bourne シェルを開きます。
3. 以下の項目を入力します。

```
cabiinstall.sh gui
```

...これは、CA Business Intelligence のインストール パッケージの ルート ディレクトリにあります。

CA Business Intelligence のインストール ウィザードが開始します。

4. インストール ウィザード パネルの指示に従い、また準備済みのワークシートを使用し、ウィザード パネルを完了します。

完全なカスタム インストールの実行の詳しい手順については、[「カスタム インストールの詳細」](#) (63 ページ)を参照してください。

コンソール インストールの実行

コンソール インストールは、コマンド ライン プロンプトが入力データについて提供されている場合の、CA Business Intelligence をインストールするための別の方法です。

コンソール インストールを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. UNIX/Linux 用の CA Business Intelligence DVD を挿入し、Bourne シェルを開きます。
3. 以下を入力します。

```
cabiinstall.sh console
```

これは、CA Business Intelligence のインストール パッケージの ルート ディレクトリにあります。

CA Business Intelligence のインストールが開始します。

4. 各入力プロンプトについて、準備済みのワークシートを使用し、必要な情報を指定します。

サイレント インストールの実行

サイレント インストールは、レスポンス ファイルで提供される値を使用し、コマンド ラインから実行するインストールです。ユーザに入力を求めることはありません。

CA Business Intelligence のサイレント インストールを実行する方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Unix/Linux 用の CA Business Intelligence DVD を挿入し、Bourne シェルを開きます。
3. 以下を入力します。

```
cabiinstall.sh silent <レスポンス ファイルへのパス>
```

これは、CA Business Intelligence のインストール パッケージのルート ディレクトリにあります。

レスポンス ファイルへのパス

レスポンス ファイルの完全パスを指定します。レスポンス ファイルは同じディレクトリにある必要はありません。どこの場所に配置してもどのような名前でも許容されます。

レスポンス ファイルの詳細については、[「レスポンス ファイル」](#) (16 ページ) を参照してください。

CA Business Intelligence のインストールが開始します。

レスポンス ファイルの修正

レスポンス ファイルの作成後、テキスト エディタを使用して設定を修正することができます。ファイルのデフォルトのパラメータは、インストール ウィザードによる初期インストールで入力された値を反映します。システム構成ごとに、レスポンス ファイルには別々のパラメータが定義されています(たとえば、Unix/Linux および Windows のディレクトリパス)。デフォルト値を環境に最適の値に変更します。

注: レスポンス ファイルの変更は、現在のインストールにどのような形でも影響を与えません。レスポンス ファイルは他のマシンへの新規インストールで使用されます。

レスポンス ファイルを編集する場合、以下のガイドラインに従います。

- このファイルを修正する前に、保管のために元のファイルのバックアップを作成します。
- レスポンス ファイルで提供される現在のシステム設定およびコメントに基づいて変更します。
- 変更後のファイルを保存します。

例

CA Business Intelligence の初期の標準インストールで作成されるレスポンス ファイルの例を以下に示します。

```
#####
# This is an InstallAnywhere variable that enables the installer to run in #
# silent mode and uses this properties file as the input #
# DO NOT MODIFY THIS VALUE #
#####

INSTALLER_UI=silent

#####
# INSTALLATION OPTIONS #
#####
#####
#####
#NOTE:For licensing purposes the installation should not be run if a NON CA BusinessObjects XI is already#
#installed on the machine / system. #
#####
#####

#This property indicates if the installer machine already has a CA BusinessObjects installed or not.
#Valid values => false {for TYPICAL or CUSTOM install set} or true {for UPDATE, MODIFY or REPAIR install set}
#This property will be verified in the installer.
#For example, if the CHOSEN_INSTALL_SET is UPDATE and this property is set to true, the installer still verifies that
#CA BOXI is installed. If no CA BOXI is found, no update will be attempted.
IS_CA_BOXI_INSTALLED=false

#The chosen Install set value can be TYPICAL, CUSTOM, UPDATE, MODIFY
# and REPAIR {REPAIR is available only on Windows}
CHOSEN_INSTALL_SET=TYPICAL

#Destination Location #
# This value will be used only in Windows system #
USER_INSTALL_DIR=/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting

# This is the BusinessObjects Installer source folder #
BIEK_SOURCE_DIR = /opt/new_test/Disk1/InstData/VM/././cabi

# This is the folder for BIEK API. #
# Its value is usually $BIEK_SOURCE_DIRS/biek #
BIEK_PATH_DIR = /opt/new_test/Disk1/InstData/VM/././cabi/biek

#####
# Password for BusinessObjects XI's Administrator user #
# This value will be used to set the Administrator password #
# during TYPICAL or CUSTOM install sets #
# The password should be atleast 6 characters long #
```

```
# The password can not contain 'administrator' in any form      #
# The password has to have at least two of the following      #
# types of characters                                          #
# - Uppercase                                                #
# - Lowercase                                                #
# - Number                                                    #
# - Punctuation                                              #
#####

BIEK_BO_ADMIN_PASSWORD=Admin123!

#####
# Parameters specifically needed #
# only for non Windows OS      #
#####

# The CA Business Intelligence installer should be run as the 'root' user.
# The CA Business Intelligence wraps the BusinessObjects installation program that
# needs to run as a non-root user.
# Enter credentials for a valid non-root user.
CABI_NONROOT_USER=becbr04
CABI_NONROOT_GROUP=becbr04

#The following value will be used to set the CASHCOMP dir if one is not already
# defined in the current environment.
BIEK_CASHCOMP_USER_DEFINED=/opt/CA/SharedComponents

##### END NON WINDOWS SPECIFIC PARAMETERS #####

# Port to be used by the Central Management Server
#Default value is 6400
#This value can be changed only on NON WINDOWS OS
BIEK_PARAM_CMSPORT = 6400

#####
# The Locale code for the BO install #
#####
# English   = en
# French    = fr
# German     = de
# Spanish   = es
# Japanese  = ja
# Simplified
# Chinese   = zh_CN
# Traditional
# Chinese   = zh_TW
# Korean    = ko
# Dutch     = nl
# Swedish   = sv
# Italian   = it
```

```

# Portugese = pt
INSTALLER_LOCALE = en

#####
# Set CMS Database parameters #
#                               #
#####

# should mysql be installed? The value can be true or false.
BIEK_INSTALL_MYSQL = true

# CMS DB TYPE can be MYSQL, MSSQL, DB2, ORACLE or SYBASE
BIEK_CMS_DB_TYPE=MYSQL

# MySQL root password
BIEK_MYSQL_ROOT = root

# User id to be used for MYSQL, DB2, MSSQL, ORACLE, SYBASE
BIEK_CMS_USER = businessobjects

# Password to be used for MYSQL, DB2, MSSQL, ORACLE, SYBASE
BIEK_CMS_PASSWORD = businessobjects

# CMS database name for MYSQL, MSSQL
BIEK_CMS_DB = $BIEK_CMS_DB$

# Database alias for DB2 / SYBASE, database server name for MYSQL, TNS name for ORACLE
BIEK_CMS_SRV = BOE115

# MSSQL DSN
BIEK_CMS_DSN =

# MYSQL server port number, needed for existing MYSQL installation
BIEK_CMS_PORT=

#####
# Set Audit database parameters #
#                               #
#####

# enable auditing for BO
BIEK_ENABLE_AUDITING = true

# User id to be used for MySQL, DB2, MSSQL, ORACLE,
BIEK_AUDIT_USER = businessobjects

# Password to be used for MySQL, DB2, MSSQL, ORACLE,
BIEK_AUDIT_PASSWORD = businessobjects

# database name for MySQL, MSSQL

```



```
BIEK_AUDIT_DB = BOE115_Audit

# DB2 database alias, MYSQL server host name, ORACLE TNS name, SYBASE database alias
BIEK_AUDIT_SRV =

# MSSQL DSN name
BIEK_AUDIT_DSN =

# MYSQL server port number
BIEK_AUDIT_PORT =

#####
# WEB SERVER PROPETIS      #
#####

# Do you want BO to install Tomcat
BIEK_INSTALL_TOMCAT = true

# install .NET for IIS?
BIEK_INSTALL_DOTNET = false

# WEB SERVER TYPE can be TOMCAT, WEBLOGIC, WEBSPHERE or IIS
CABI_WEB_SERVER_TYPE = TOMCAT

#####
# POST_INSTALL FUNCTIONS  #
#####

#####
# BO Tomcat Installation  #
# New or Existing        #
#####

# BO Tomcat directory either for new installation or for existing TOMCAT installation
BIEK_TOMCAT_DIR = /opt/CA/SharedComponents/CommonReporting/Tomcat

#Following TOMCAT values are needed only for a new TOMCAT installation.

# BO Tomcat Connection Port
BIEK_TOMCAT_CONNECTION_PORT = 8080

# BO Tomcat Redirect Port
BIEK_TOMCAT_REDIRECT_PORT = 8443

# Bo Tomcat Shutdown port
BIEK_TOMCAT_SHUTDOWN_PORT = 8005

#####
# Deploy to Existing      #
# Application Server      #
```

```
#####  
  
# Target if deploying to a Websphere server  
BIEK_DEPLOY_WEBSPHERE_DIR =  
  
# Websphere Server Name  
BIEK_DEPLOY_WEBSPHERE_SRV =  
  
# Target if deploying to a WebLogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_DIR =  
  
# Port number of weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_PORT =  
  
# Admin user name for weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_USER =  
  
# Admin user password for weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_PWD =  
  
# Name of weblogic server  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_SRV =  
  
# Version of weblogic server ( 8 or 9)  
BIEK_DEPLOY_WEBLOGIC_VERSION =  
  
#####  
# Properties that control the log messages from BIEK API #  
#####  
  
BIEK_LOG_FILE=/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting/ca-install.log  
BIEK_DEBUG_ON=true
```

UNIX および Linux でのアンインストール

システム上不要になった場合は、CA Business Intelligence をアンインストールします。
以下のセクションでは、CA Business Intelligence および付属マニュアルを UNIX/Linux
からアンインストールする方法について説明します。

アンインストールの種類

CA Business Intelligence ではアンインストールについて 2 つのオプションを提供しています。

完全アンインストール

このオプションでは、CA Business Intelligence のすべての機能およびコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルおよびフォルダは影響を受けません。

特定の機能のアンインストール

このオプションでは、CA Business Intelligence のアンインストールする特定の機能を選択できます。

注: サイレント アンインストールでは特定の機能のアンインストールができず、完全アンインストールのみを実行できます。

GUI によるアンインストール

GUI により CA Business Intelligence をアンインストールする方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. (インストール場所が `/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting` である場合) `/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting` の下にある `Uninstall` フォルダを開きます。
3. 以下を入力します。

```
/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting/Uninstall/Uninstall_CA_Business_Intelligence -i swing
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

コンソールによるアンインストール

コンソールにより CA Business Intelligence をアンインストールする方法

1. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Bourne シェルを開きます。
3. 以下を入力します。

```
/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting/Uninstall/Uninstall_CA_Business_Intelligence
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

サイレント アンインストールの実行

CA Business Intelligence のサイレント アンインストールを実行する方法

1. Bourne シェルを開きます。
2. (インストール場所が `/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting` である場合)
`/opt/CA/SharedComponents/CommonReporting` の下にある `Uninstall` フォルダを開きます。
3. 以下を入力します。

```
./Uninstall_CA_Business_Intelligence -i silent
```

CA Business Intelligence のアンインストール プロセスが開始します。

第 5 章：インストール後の考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サンプル データベースおよびテンプレート \(61 ページ\)](#)

[ファイアウォールの設定 \(61 ページ\)](#)

サンプル データベースおよびテンプレート

インストーラには、CA によって提供されるテンプレート レポートのセット、および BusinessObjects によって提供されるサンプル データベースおよびテンプレートをインストールできるオプションがあります。

CA によって提供されるテンプレートは、CA の外観を示すレポートです。CA テンプレートは BusinessObjects サンプル データベースに対して実行します。このデータベースは、Microsoft Windows でのみ使用できます。UNIX/Linux でもレポート結果は表示できますが、結果はレポートに格納され、UNIX/Linux プラットフォームで実行できません。

ファイアウォールの設定

BusinessObjects Enterprise XI はファイアウォール システムによりネットワーク セキュリティを損なわずにイントラネットおよび インターネット上でのレポートングを提供します。

ファイアウォールは、1 台または複数のコンピュータを、無許可のネットワーク アクセスから保護するセキュリティ システムです。ファイアウォールでは、慎重に制御されたポイントで、ネットワークへの出入りをする人を制限します。攻撃者が他の防衛箇所に接近することも防止します。通常、ファイアウォールは、企業のイントラネットがインターネットを介して不正にアクセスされることを防止します。ファイアウォールはセキュリティポリシー、ログ インターネット アクティビティを設定でき、セキュリティ上の問題の解決の中心となることができます。ファイアウォールは、そこを通らない悪意の内部者または接続に対しては保護できません。また、ファイアウォールは、まったく新しい脅威に対しては正しく設定したり保護することはできません。

デフォルトでは、BusinessObjects Enterprise XI は、コンポーネント間の通信に動的に選択されたポート番号を使用します。BusinessObjects Enterprise XI コンポーネント間に、パケット フィルタリングまたは NAT (Network Address Translation、ネットワーク アドレス変換)を使用して処理状態を把握するファイアウォールを設定する場合、このデフォルトを変更する必要があります。これらのファイアウォールは、ファイアウォール内の指定されたアドレスおよびポートのみにより、ファイアウォール外からの通信を許可することにより、保護します。

BusinessObjects Enterprise XI がこのようなファイアウォールを超えて通信できるようにするには、以下の手順が必要です。

1. コンポーネントが固定アドレスおよびポートを使用するよう構成します。
2. これらのアドレスおよびポートを使用したファイアウォールの下のサービスへの通信を、ファイアウォールが許可するように構成します。

ファイアウォールおよび BusinessObjects Enterprise XI のファイアウォール間の通信を有効にする方法の詳細については、<http://www.businessobjects.com/Support/Documentation/Product Guides> の下で検索)から「BusinessObjects Enterprise XI Release 2 展開および構成ガイド」を取得して参照してください。

付録 A: カスタム インストールの詳細

この付録では、CA Business Intelligence のカスタム インストールを実行するプロセスについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[カスタム インストールの実行](#) (63 ページ)

カスタム インストールの実行

このセクションでは、カスタム インストールの実行方法の詳細について説明します。

CA Business Intelligence のカスタム インストールを実行する方法

1. BusinessObjects XI 管理者パスワードを入力して確認します。
2. CMS データベース タイプを選択します。

CMS データベースを管理するには、データベース アカウントの設定が必要です。CA Business Intelligence のインストール時に MySQL のインストールを選択する場合、インストール時にこのアカウントの設定が求められます。

独自のデータベースを使用する予定がある場合は、CA Business Intelligence をインストールする前に、以下の手順を実行します。

CA Business Intelligence のためにデータベース アカウントを設定する方法

- a. BusinessObjects Enterprise にデータベース サーバへの適切な権限を提供するユーザ アカウントを作成または選択します。
 - b. データベースにログオンでき、CMS の使用のために設定したアカウントを使用して管理タスクを実行できることを確認します。
3. データベース接続のプロパティを指定します。

Oracle の場合

- a. [Oracle]をクリックします。
- b. [TNS 名]フィールドに Oracle の TNS 名 を入力します。
- c. [ユーザ名]および[パスワード]フィールドにサーバの認証情報を入力します。
- d. 監査データベースの使用を予定している場合は、監査データベースについてこれらの手順を繰り返してから[次へ]をクリックします。監査データベースを使用しない場合はそのまま[次へ]をクリックします。[監査データベースと同じ設定を使用]を選択すると、CMS データベース接続の設定が監査データベースに適用されます。

IBM DB2 の場合

- a. [IBM DB2]をクリックします。
- b. [サーバ]フィールドにデータベース エイリアス名を入力します。
- c. [ユーザ名]および[パスワード]フィールドにサーバの認証情報を入力します。
- d. 監査データベースの使用を予定している場合は、監査データベースについてこれらの手順を繰り返してから[次へ]をクリックします。監査データベースを使用しない場合はそのまま[次へ]をクリックします。[監査データベースと同じ設定を使用]を選択すると、CMS データベース接続の設定が監査データベースに適用されます。

MySQL の場合

- a. [MySQL]をクリックします。
- b. CMS データベースの[データベース]フィールドにデータベース名を入力します。
- c. [MySQL ホスト名]フィールドにホスト名を入力します。
- d. [ポート]フィールドに MySQL が使用するホスト名を入力します。
- e. [ユーザ名]および[パスワード]フィールドにサーバの認証情報を入力します。
- f. 監査データベースの使用を予定している場合は、監査データベースについてこれらの手順を繰り返してから[次へ]をクリックします。監査データベースを使用しない場合はそのまま[次へ]をクリックします。[監査データベースと同じ設定を使用]を選択すると、CMS データベース接続の設定が監査データベースに適用されます。

Sybase の場合

- a. [Sybase]をクリックします。
- b. CMS データベースの[データベース エイリアス]フィールドにデータベースエイリアス名を入力します。
- c. [ユーザ名]および[パスワード]フィールドにサーバの認証情報を入力します。
- d. 監査データベースの使用を予定している場合は、監査データベースについてこれらの手順を繰り返してから[次へ]をクリックします。監査データベースを使用しない場合はそのまま[次へ]をクリックします。[監査データベースと同じ設定を使用]を選択すると、CMS データベース接続の設定が監査データベースに適用されます。

Microsoft SQL Server の場合

注: Microsoft SQL Server は Unix/Linux プラットフォームでは使用できません。

このデータベースはインストール前に設定する必要があります。ODBC データソース アドミニストレータの[システム DSN]タブで、新規のデータ ソースを作成する必要があります。

- a. [Microsoft SQL Server]をクリックしてから、[次へ]をクリックします。
 - b. DSN 名を入力します。
 - c. データベース名を入力します。
 - d. ユーザ名を入力します。
 - e. パスワードを入力および確認します。
 - f. 監査データベースの使用を予定している場合は、監査データベースについてこれらの手順を繰り返してから[次へ]をクリックします。監査データベースを使用しない場合はそのまま[次へ]をクリックします。[監査データベースと同じ設定を使用]を選択すると、CMS データベース接続の設定が監査データベースに適用されます。
4. Web サーバ構成を指定します。CA Business Intelligence では、独自バージョンの Apache Tomcat をインストールするか、既存のアプリケーション サーバを使用するかオプションが提供されています。

Apache Tomcat の場合

- a. [Tomcat]をクリックします。
- b. 既存の Apache Tomcat インストールの場所を入力します。
注: Tomcat がすでにインストールされている場合、インストーラではこの情報の入力のみが求められます。
- c. Tomcat 接続ポート番号を入力します。
- d. Tomcat リダイレクト ポートを入力します。
- e. Tomcat シャットダウン ポートを入力します。

BEA Weblogic の場合

- a. WebLogic のドメイン パスを入力します。
- b. WebLogic ポートを入力します。
- c. 管理者 ID を入力します。
- d. 管理者パスワードを入力します。
- e. WebLogic 管理サーバ名を入力します。
- f. WebLogic サーバのバージョン番号を入力します。

IBM WebSphere の場合

- a. WebSphere のインストール ディレクトリを入力します。
- b. WebSphere サーバ名を入力します。

Microsoft IIS の場合

注: Microsoft IIS Server は Unix/Linux プラットフォームでは使用できません。

Microsoft IIS の情報は Windows レジストリから収集されます。ユーザが他の情報を入力する必要はありません。

5. サンプル データベースおよびテンプレートをインストールするかどうかを指定します。
6. 設定を確認し、CA Business Intelligence をインストールします。

付録 B: トラブルシューティング

インストールに失敗した場合は、ログ ファイルで詳細情報を確認します。ログ ファイルには、一部の関数からの戻り値として示されたエラー コードが含まれます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft Windows 固有のエラー コード \(67 ページ\)](#)

[UNIX/Linux 固有のエラー コード \(69 ページ\)](#)

[CA Business Intelligence 固有のエラー コード \(74 ページ\)](#)

Microsoft Windows 固有のエラー コード

次の表は、Microsoft Windows 固有のエラー コードを示します。

コード	定数	説明
0	ERROR_SUCCESS	操作は正常に行われました。
1	ERROR_INVALID_FUNCTION	不正な関数です。 BIEK の内部エラーの可能性あります。
2	ERROR_FILE_NOT_FOUND	システムは指定されたファイルを検出できません。
3	ERROR_PATH_NOT_FOUND	システムが指定したパスを検出できません。
5	ERROR_ACCESS_DENIED	アクセスが拒否されました。
8	ERROR_NOT_ENOUGH_MEMORY	このコマンドを実行するための十分なストレージがありません。
11	ERROR_BAD_FORMAT	不正なフォーマットでプログラムをロードしようとした。 BIEK の内部エラーの可能性あります。
15	ERROR_INVALID_DRIVE	システムは指定されたドライブを検出できません。

コード	定数	説明
1601	ERROR_INSTALL_SERVICE_FAILURE	Windows Installer Service にアクセスできませんでした。Windows Installer が正しくインストールされていない場合に、このエラーが発生することがあります。
1602	ERROR_INSTALL_USEREXIT	ユーザによりインストールがキャンセルされました。
1603	ERROR_INSTALL_FAILURE	インストール中に致命的なエラーが発生しました。十分なディスク容量がないなど、インストール中に発生するあらゆる悪い状況が考えられます。
1604	ERROR_INSTALL_SUSPEND	インストールが中断され、完了していません。
1612	ERROR_INSTALL_SOURCE_ABSENT	この製品のインストールソースを使用できません。ソースが存在し、アクセス可能であることを確認してください。
1613	ERROR_INSTALL_PACKAGE_VERSION	このインストール パッケージは Windows Installer Service でインストールできません。より新しいバージョンの Windows Installer Service が含まれている Windows サービス パックのインストールが必要です。
1618	ERROR_INSTALL_ALREADY_RUNNING	別のインストールを実行中です。このインストールに進む前に、実行中のインストールを完了してください。
1619	ERROR_INSTALL_PACKAGE_OPEN_FAILED	このインストール パッケージを開くことができません。パッケージが存在し、アクセス可能であることを確認してください。INI ファイルの SourceDir の値を確認してください。

コード	定数	説明
1620	ERROR_INSTALL_PACKAGE_INVALID	このインストール パッケージを開くことができません。DVD のファイルが破損している可能性があります。
1622	ERROR_INSTALL_LOG_FAILURE	インストール ログ ファイルを開こうとしてエラーです。指定されたログ ファイルの場所が存在し、書き込みができることを確認してください。
1623	ERROR_INSTALL_LANGUAGE_UNSUPPORTED	このインストール パッケージの言語は、お使いのシステムでサポートされていません。
1624	ERROR_INSTALL_TRANSFORM_FAILURE	変換適用エラーです。使用する変換は言語に関連付けられます。
1625	ERROR_INSTALL_PACKAGE_REJECTED	このインストールはシステムポリシーにより禁止されています。システム管理者にお問い合わせください。
3010	ERROR_SUCCESS_REBOOT_REQUIRED	インストールは成功しましたが、インストールを完了するには再起動が必要です。

UNIX/Linux 固有のエラー コード

次の表は、UNIX/Linux 固有のエラー コードを示します。

コード	説明
0	成功
1	操作は許可されていません
2	ファイルまたはディレクトリが存在しません
3	プロセスが存在しません
4	システム コールにより中断されました

コード	説明
5	入力/出力エラーです
6	デバイス またはアドレスが存在しません
7	引数リストが長すぎます
8	実行フォーマット エラーです
9	ファイル記述子が不正です
10	子のプロセスが存在しません
11	リソースを一時的に使用できません
12	メモリを割り当てることができません
13	権限が拒否されました
14	不正なアドレスです
15	ブロック デバイスが必要です
16	デバイスまたはリソースが使用中です
17	ファイルは存在します
18	無効なクロスデバイス リンクです
19	デバイスが存在しません
20	ディレクトリではありません
21	ディレクトリです
22	無効な引数
23	システムで開いているファイルが多すぎます
24	開いているファイルが多すぎます
25	デバイスの不適切な IOCTL です
26	テキスト ファイルが使用中です
27	ファイルが大きすぎます
28	デバイスに容量が残っていません
29	不正なシークです
30	読み取り専用ファイル システムです
31	リンクが多すぎます
32	破損パイプです
33	ドメイン外の数値引数です

コード	説明
34	範囲外の数値結果です
35	リソース デッドロックが回避されました
36	ファイル名が長すぎます
37	ロックを使用できません
38	機能が実装されていません
39	ディレクトリが空ではありません
40	シンボリック リnkのレベルが多すぎます
42	希望するタイプのメッセージがありません
43	ID が削除されています
44	チャンネル番号が範囲外です
45	レベル 2 が同期化されていません
46	レベル 3 が中止されました
47	レベル 3 がリセットされました
48	リンク番号が範囲外です
49	プロトコル ドライバが接続されていません
50	使用できる CSI 構造がありません
51	レベル 2 が中止されました
52	無効な交換です
53	無効なリクエスト記述子です
54	交換がフルです
55	A ノードが存在しません
56	無効なリクエスト コードです
57	無効なスロットです
59	不正なフォント ファイル フォーマットです
60	ストリームにデバイスがありません
61	使用できるデータはありません
62	タイムアウトしました
63	ストリーム リソース外です
64	マシンがネットワーク上にありません

コード	説明
65	パッケージがインストールされていません
66	オブジェクトがリモートです
67	リンクが提供されていません
68	通知エラーです
69	Srmount エラーです
70	送信の通信エラーです
71	プロトコル エラー
72	マルチホップが試行されました
73	RFS 固有エラーです
74	不正なメッセージです
75	データ タイプに定義された値が長すぎます
76	ネットワーク上で名前が一意ではありません
77	ファイル記述子が不正な状態です
78	リモート アドレスが変更されました
79	必要な共有ライブラリにアクセスできません
80	破損している共有ライブラリへのアクセスです
81	a.out の .lib セクションが破損しています
82	リンクしようとしている共有ライブラリが多すぎます
83	共有ライブラリを直接実行できません
84	無効なまたは不完全なマルチバイト文字またはワイド文字です
85	中断されたシステム コールを再開する必要があります
86	ストリーム パイプ エラーです
87	ユーザが多すぎます
88	非ソケット上のソケット操作です
89	送信先アドレスが必要です
90	メッセージが長すぎます
91	ソケットに対するプロトコル タイプが誤っています
92	プロトコルを使用できません
93	プロトコルがサポートされていません

コード	説明
94	ソケット タイプがサポートされていません
95	操作がサポートされていません
96	プロトコル ファミリがサポートされていません
97	アドレス ファミリがプロトコルによりサポートされていません
98	アドレスはすでに使用されています
99	リクエストされたアドレスを割り当てられません
100	ネットワークが停止しています
101	ネットワークにアクセスできません
102	リセットでネットワークの接続が停止しました
103	ソフトウェアにより接続が中止されました
104	ピアにより接続がリセットされました
105	使用できるバッファ領域がありません
106	トランスポート エンドポイントはすでに接続されています
107	トランスポート エンドポイントが接続されていません
108	トランスポート エンドポイント シャットダウン後に送信できません
109	参照が多すぎてスプライスできません
110	接続はタイムアウトしました
111	接続は拒否されました
112	ホストが停止しています
113	ホストへのルートがありません
114	操作はすでに実行中です
115	操作は現在実行中です
116	停止している NFS ファイル処理です
117	構造はクリーニングが必要です
118	XENIX 名前付きタイプ ファイルではありません
119	使用できる XENIX セマフォがありません
120	名前付きタイプ ファイルです
121	リモート I/O エラーです
122	ディスク クォータが超過しています

コード	説明
123	メディアが見つかりません
124	誤ったメディア タイプです

CA Business Intelligence 固有のエラー コード

次の表は、CA Business Intelligence 固有のエラー コードを示します。

コード	定数	説明
16000	ERROR_BIEK_NON_CA_INSTALL	Business Intelligence Embedding Kit バージョンでない BusinessObjects がシステムにすでにインストールされている場合に、インストール中に返されます。
16001	ERROR_BIEK_NOT_INSTALLED	Business Intelligence Embedding Kit バージョンの BusinessObjects がシステムにインストールされていない場合に、Business Intelligence Embedding Kit バージョンでない BusinessObjects を誤ってアンインストールすることがないように、アンインストール中に返されます。
16002	ERROR_BIEK_FILE_IO	ファイルの作成またはファイルへの書き込みでエラーが発生しました。
16003	ERROR_BIEK_REGISTRY	レジストリからの読み込みまたはレジストリへの書き込みでエラーが発生しました。
16004	ERROR_BIEK_INITIALIZE	INI ファイルの読み込みでエラーが発生しました。
16005	ERROR_BIEK_CA_VER	Business Intelligence Embedding Kit バージョンの BusinessObjects がすでにインストールされていますが、インストールしようとするバー

コード	定数	説明
		ジョンと適合しません。
16006	ERROR_BIEK_ARGUMENTS	無効な引数が <code>biek.exe</code> に渡されました。
16007	ERROR_BIEK_UNEXPECTED	このエラー コードは <code>GetExitCodeThread()</code> のリターン コードと <code>MsiInstallProduct()</code> のリターン コードの間のあいまいさの可能性について注意を喚起するために含まれました。このエラーが発生した場合、 <code>MsiInstallProduct()</code> が同じ理由で <code>ERROR_NO_MORE_ITEMS (259)</code> を返したことを意味します。これは、脅威がまだ実行中であるかどうかを確認するためにテストされた <code>GetExitCodeThread()</code> によって返される値 <code>STILL_ACTIVE</code> と同じです。
16008	ERROR_BIEK_INVALID_PATH	無効なパスが関数に渡されましたか、INI ファイルに入力されました。
16009	ERROR_BIEK_LANG_SUPPORT	このシステムでサポートされない言語コードが使用されました。
16010	ERROR_BIEK_INVALID_PARAM	選択したオプションでサポートされないパラメータが設定されようとしていました。
16011	ERROR_BIEK_INVALID_VALUE	パラメータが無効な値に設定されようとしていました。
16012	ERROR_BIEK_DEPLOY_FAILED	<code>.war</code> ファイルをアプリケーション サーバにこの展開しようとしたとき、エラーが発生しました。
16013	ERROR_BIEK_IMPORT_FAILED	<code>BIAR</code> ファイルをインポートしようとしたとき、エラーが発生しました。

コード	定数	説明
16015	ERROR_BIEK_DISK_HUGE	256 テラバイト(TB)より大きいサイズのハード ディスクが報告されました。
16016	ERROR_BIEK_LOW_DISK_SPACE	インストールのためのハード ディスク容量が不足しています。
16017	ERROR_BIEK_INVALID_COMBO	オプションおよびパラメータの組み合わせが適切ではありません。
16018	ERROR_BIEK_MEMORY	メモリを割り当てられません。 (UNIX のみ)
16019	ERROR_BIEK_ENVIRONMENT	CASHCOMP 環境変数が設定されていません。 (UNIX のみ)
16020	ERROR_BIEK_INVALID_CODE	すでに登録されている製品コードを登録しようとしたか、インストールされていない製品コードをアンインストール使用としました。
16021	ERROR_BIEK_PERMISSIONS	操作に必要な権限がありません。ルート以外のユーザに SetInstallUser が呼び出されたか、SC ディレクトリでの実行および読み込み権限のないユーザにより SetSCDir が呼び出された場合に返されず(Unix のみ)。
16022	ERROR_BIEK_ROOT_INSTALL	ルートとして StartInstall の呼び出しが行われました。SetInstallUser を最初に呼び出す必要があります。 (UNIX のみ)
16023	ERROR_BIEK_SET_USER	SetInstallUser で選択された値にユーザまたはグループを変更できません。 (UNIX のみ)
		注: このエラーが返された場合、内部エラーまたは合システム不安定性の、非常に重大なエ

コード	定数	説明
		ラーが発生しています。状態が悪化する前に、SetInstallUser API を確認してください。
16024	ERROR_BIEK_JAVA_VM	Java Virtual Machine でエラーが発生しました。
16025	ERROR_BIEK_BOSDK_EXCEPTION	BusinessObjects SDK 関数の呼び出しでエラーが発生しました。
16026	ERROR_BIEK_UNKNOWNHOSTEXCEPTION	存在しないまたは実行していない CMS サーバに接続使用としました。
16027	ERROR_BIEK_CMSCONNECT	CMS へのログオンでエラーが発生しました。無効なユーザ名/パスワード、無効な CMS ホスト/ポート番号、または無効な認証の種類タイプが原因である可能性があります。
16028	ERROR_BIEK_ABNORMAL_EXIT	BIEK によって起動された子のプロセスが異常終了しました。
16029	ERROR_BIEK_PATCH_READ	内部コードです。外部ユーザには返されません。
16030	ERROR_BIEK_PATCH_LEVEL	このパッチを受け入れるには、現在の BusinessObjects のインストールに対して以前のパッチが必要です。
16031	ERROR_BIEK_PATCH_UNKNOWN	不明なパッチ タイプです。BIEK は現在、正式な BusinessObjects パッチのみをサポートします。
16032	ERROR_BIEK_SC_ALREADY_SET	CASHCOMP 環境は Unix ですすでに設定されています。
16033	ERROR_BIEK_ALREADY_INSTALLED	BusinessObjects の BIEK バージョンがすでに Windows にインストールされている場合、ターゲット ディレクトリを新しい場所に設定するための SetTargetDir の

コード	定数	説明
		呼び出しでエラーが発生しました。
16034	ERROR_BIEK_SET_REG	Windows でのレジストリの設定でエラーが発生しました。
16035	ERROR_BIEK_NO_TOMCAT_RUNNING	Tomcat サービスは現在実行していません。
16036	ERROR_BIEK_TOMCAT_NOSTOP	Tomcat サービスを停止できません。
16037	ERROR_BIEK_TOMCAT_NOSTART	Tomcat サービスを開始できません。
16038	ERROR_BIEK_WEBLOGIC_ADMINPWD	BEA WebLogic 管理者パスワードが提供されていません。
16039	ERROR_BIEK_NOT_SUPPORTED_VERSION	Web サーバのバージョンはサポートされません。

索引

A

Apache Tomcat - 17, 37

B

BEA WebLogic - 16, 19, 37

bobje フォルダ - 21

BusinessObjects documentation - 30, 33

C

CA 共有コンポーネント - 16

CMS データベース - 8, 22

I

IBM DB2 - 27, 28

IBM WebSphere - 20, 37

アンインストール後のフォルダの削除 - 21

パッチの考慮事項 - 20

L

Linux - 51

アンインストール - 58

インストール - 51

要件 - 35

ルート/ルート以外の認証情報 - 51

M

Microsoft IIS - 21, 37

Microsoft SQL Server - 25, 26, 37

Microsoft Windows - 39

アンインストール (Windows) - 46

インストール - 39

インストール パス - 15

エラー コード - 67

許可 - 39

要件 - 35

MySQL - 22, 23

O

Oracle - 25

S

Sybase - 29

U

Unicode - 22

UNIX - 51

アンインストール - 58

インストール - 51

エラー コード - 69

要件 - 36

ルート/ルート以外の認証情報 - 51

UTF-8 - 22

あ

新しいインストール - 13

アプリケーション サーバ要件 - 37

アンインストール

Linux からの - 58

Unix からの - 58

Windows からの - 46

アンインストール後のフォルダの削除 - 21

手動 - 49

アンインストール後のフォルダの削除 - 21

インストール - 7

UNIX および Linux での - 51

Windows での - 39

ウィザード - 40, 52

オプション - 12

コンソール - 40, 52

サイレント - 41, 53

種類 - 11

チェックリスト - 10

レスポンス ファイル - 16

インストール後の考慮事項 - 61

インストールのチェック リスト - 10

インストール前の留意事項 - 15

エラー コード - 67, 69

オペレーティング システム - 35

か

カスタマ サポート、お問い合わせ - ii

カスタム インストール - 12
監査 - 8
管理者の認証情報 - 16, 39
許可 - 39
更新されたインストール - 13
コンソール インストール - 40, 52

さ

サーバ プラットフォーム要件 - 34
サービス パック更新 - 33
サイレント インストール - 16, 41, 53
サポート、お問い合わせ - ii

samples

データベース - 61
○テンプレート - 61
レスポンス ファイル - 42, 54
システム要件 - 34
修正されたインストール - 13
修復されたインストール - 14
手動アンインストール - 49

た

データベース

CMS - 8
監査 - 8
サンプル - 61
要件 - 22, 37
テクニカル サポート、お問い合わせ - ii
テクニカル サポートへのお問い合わせ - ii

は

バージョン情報 - 14
バージョン情報の特定 - 14
ハードウェア要件 - 33
パッチ更新 - 33
標準インストール\$\$\$ひょうじゅんいんすとーる
- 12
ファイアウォールの設定 - 61
ブラウザ設定 - 33

ま

メディア コンテンツ - 30

ら

ライブラリ パスの指定 - 22

ルート/ルート以外の認証情報 - 51
レスポンス ファイル - 16
samples - 42, 54
変更 - 41, 53